

## 1. 実践研究テーマ

家庭学習の充実と質の向上  
徳島版読解力を生かし、ICTを有効活用した授業改善

## 2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

- 家庭学習の充実と質の向上を目指して
  - ・家庭学習の意義や、習慣づけることのメリットを伝えるとともに、ICTを活用した課題の出し方を工夫する。
  - ・家庭学習の友を活用し、個々で目標を決める。
  - ・随時教室で自主学習ノート展を開設。
  - ・中間・期末テスト前に小中連携して1週間の家庭学習強化週間を設けて、生徒の意識を高める。
  - ・テスト範囲表の活用する方法(表を見ても何をどのように勉強するのかわからない生徒にどのような活用方法があるのか)を指導する。
- 徳島版読解力を生かし、ICTを有効活用した授業改善を目指して
  - ・ステップアップテストと全国学力学習状況調査の結果分析を行い、全教職員で、本校生徒がつけるべき力や改善策を共有した。
  - ・徳島版読解力育成授業づくり研修(校内職員研修)を行い、授業づくり(主に協働学習)についてグループワーク等を行った。
  - ・県教育委員会や鳴門教育大学、協力校と連携し、理科における授業づくりを行い、研究授業を実施した。
- 全体的な取り組みとして
  - ・学力向上実行プランを作成し、協力校とも連携して、全員で共通理解した。
  - ・学力UP応援コーナーとして、授業や家庭学習で、どのようなことを意識するべきかのアドバイスなどを掲示した。



## 3. 取組の成果

### ○ 教職員の変容

- ・家庭学習の意義を見直し、課題の与え方を工夫することができた。
- ・徳島版読解力を意識した授業づくりに努め、授業のパターン化ができた。
- ・これまではキーワードを提示していたが、読解力育成のために、生徒自身が文章から重要語を見つけ出す指導へと意識を転換した。
- ・筆者の主張に説得力があるのかを考えさせ、なぜそのように考えたのかを説明することで読解力や表現力の育成を意識した。

### ○ 児童生徒の変容

- ・定期テストに向けての家庭学習を計画的に行うことができた。
- ・家庭学習において、主体的に課題を選べる機会を設けたことで、自分の課題を見つめたり、振り返ったりする機会につながった。
- ・授業の理解が深まるほど、課題に前向きに取り組む姿勢が強まった。
- ・定期テストに向けての勉強方法を工夫する生徒がいた。

## 4. 2年間の実践を振り返って

- ・2つの研究テーマに沿った取り組みを意識した実践を、2年間継続して行うことができた。
- ・学校力向上コラボレーション事業の学校訪問での指導助言が、研修を深める機会となった。
- ・「なぜ」を大切にできる学びの場を確保し、生徒がわかる授業の実践を継続していく。